

BOM for Windows Ver.6.0 リリースノート

Copyright © 2013 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.

このドキュメントでは、BOM for Windows Ver.6.0 の主な新機能、及び、BOM for Windows Ver.5.0 からの仕様変更、不具合修正、制限事項の各内容について、ご案内しています。

■■■ 新機能 ■■■	2
1. 集中監視コンソールの Web コンソール化	2
2. Windows Server 2012 と Windows8 に対応	2
3. Microsoft SQL Server 2012 に対応	2
4. ミドルウェアのテンプレート追加	2
5. IPv6 に対応	2

■■■ 仕様変更/機能改善 ■■■	2
1. 監視項目の閾値に「0 より小さい」を設定した場合の表示を変更	2
2. 64bit プロセスと 64bit パフォーマンスカウンター用の設定を追加	2
3. 監視サービスと集中監視 Web サービスの使用ポートを、ファイアウォールの例外として追加	2

■■■ 注意・制限事項 ■■■	2
1. Microsoft .NET Framework の対応バージョン	2
2. 監視設定のインポート及びテンプレートのインポート	3
3. グループ名、インスタンスの表示名、インスタンス ID、アクション名に使用できる文字の制限	3
4. Linux オプションのインストールパスについての制限	3
5. 監視ログの削除について	3
6. 集中監視コンソールの制限事項	3

■■■ 更新履歴 ■■■	
• 2013 年 06 月 BOM for Windows Ver. 6.0 リリース	

■ ■ 新機能 ■ ■

1.集中監視コンソールの Web コンソール化

- 従来の exe 形式の集中監視コンソールを廃止し、新たに Web コンソールを実装しました。HTTPS プロトコルを使用し、一般的な Web ブラウザーで監視ステータスを参照できるためタブレット端末等からサーバーの状態確認が可能となります。

2.Windows Server 2012 と Windows8 に対応

- Windows Server 2012 と Windows 8 に対応しました。対応するエディションにつきましては、弊社 Web の製品情報をご参照ください。

3.Microsoft SQL Server 2012 に対応

- アーカイブデータベースが Microsoft SQL Server 2012 に対応しました。高可用性を確保した AlwaysOn 構成でも、確実に監視データの処理を実行します。

4.ミドルウェアのテンプレート追加

- BOM 5.0 でカバーしているミドルウェアのテンプレートに、新しいバージョンのテンプレートを追加しました。
BOM 6.0 に同梱されている監視テンプレートの詳細については弊社技術情報の以下のサポート情報番号を参照してください
サポート情報番号:000203
タイトル:BOM 6.0 メディアに含まれる監視テンプレートについて

5.IPv6 に対応

- 基本パッケージ並びにすべてのオプション製品で IPv6 に対応いたしました。

■ ■ 仕様変更/機能改善 ■ ■

1.監視項目の閾値に「0 より小さい」を設定した場合の表示を変更

- メモリ監視やカスタム監視等、注意/危険しきい値に 0 の入力が入力が許されている項目で、「0 より小さい」をしきい値として指定すると、所属する監視グループの項目一覧(リザルトペイン内)の閾値に「なし」と表示される仕様へ変更しました。

2.64bit プロセスと 64bit パフォーマンスカウンター用の設定を追加

- BOM 5.0 ではモジュール入れ替えにより対応していた、64bit プロセスと 64bit パフォーマンスカウンターの監視に、監視項目のプロパティ内の設定により対応可能となりました。

3.監視サービスと集中監視 Web サービスの使用ポートを、ファイアウォールの例外として追加

- インストール時のオプションとして、監視サービスと集中監視 Web サービスの使用ポートを、Windows ファイアウォールの例外として追加する機能を追加しました。追加された例外は、アンインストール時に削除されます。

■ ■ 注意・制限事項 ■ ■

1.Microsoft .NET Framework の対応バージョン

- レポートオプション、及び、VMware オプションの利用には、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 のインストールが必須条件となります。該当する各オプション製品をインストールする前に、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 をインストールしてください。
尚、各 OS によって Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 の表記が異なる場合がありますのでご注意ください。

2.監視設定のインポート及びテンプレートのインポート

- BOM 5.0 用に公開されている監視テンプレートや、BOM 5.0 からエクスポートされた監視設定は、インポートを行うことはできません。

3.グループ名、インスタンスの表示名、インスタンス ID、アクション名に使用できる文字の制限

- BOM 6.0 では、次に挙げる半角文字を、グループ名、インスタンスの表示名、インスタンス ID、アクション名に使用することはできません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^`{|}~

4.Linux オプションのインストールパスについての制限

- Linux オプションを 2 バイト文字が含まれるパスにインストールした環境では、インスタンスの作成時に実行されるモニタレットの転送や、Linux インスタンスのプロパティから実行できるモニタレットの更新操作に失敗し、モニタレットが Linux コンピューターにコピーされません。また、モニタレットのコピー失敗を示すエラーも出力されません。Linux オプションは、2 バイト文字を含まないパスにインストールしてお使いいただきますようお願いいたします。

5.監視ログの削除について

- 監視ログやヒストリーログの一覧やグラフ表示を行っている状態でログの削除を行うと、表示が一時的に正しく行われな場合がありますが、ログを表示しているウインドウを一旦閉じて再度開くことにより正常に表示されます

6.集中監視コンソールの制限事項

- 集中監視コンソールは Internet Explorer 8, 9, 10 Windows 版 Chrome、iPad の Safari 上以外では動作保障外です。
- [集中監視コンソールに Chrome を使用する際の制限]
 - ① Chrome を使用して既にログイン状態にあるアカウントへ、同一のアカウントを使用して2重にログインを行った場合、先にログインしている側の Chrome でメニューボタン操作を行うとエラーが表示されることがあります。この場合は、エラーを表示している(先にログインしている)Chrome を終了してください。
 - ② Chrome で集中監視コンソールを継続的に表示すると、Process パフォーマンスオブジェクトの Handle Count、Working Set、Virtual Bytes の各値が、上昇する傾向にあります。Chrome で集中監視コンソールを運用する場合には、一定期間ごとに再起動を行う運用をご検討ください。
- [iPad で動作する Safari で集中監視コンソールを表示する際の制限]
 - ① テキストボックスへのコピー/ペーストが実行できないことがあります
 - ② テキストボックスで長押しメニューを表示させた後に、キーボードからの入力を受け付けなくなることがあります。
 - ③ iOS 6.1 で動作する Safari では、インスタンス編集画面の表示名のメニューが正しい位置に表示されずにフォーカスが外れることがあります。
- [各ブラウザ共通の制限事項]
 - ① インスタンス情報収集実行時には、集中監視 Web サービスが動作しているコンピューターの ARP テーブルから、接続先コンピューター情報を取得した後ポートの確認を行っております。このため、集中監視 Web サービスが動作するコンピューター上の ARP テーブルにキャッシュされていないコンピューターは表示されない場合があります。
 - ② カスタムアクションの引数の値に空白があると、空白以降が正しく表示されません。引数に空白を含む場合には、引用符で囲ってください。
 - ③ BOM 6.0 の初期リリース版では、メール送信アクション機能では、ファイルを添付したメールの送信はサポートしていません。